

「介護職員のキャリアアップ研修体系の 開発と支援に関する調査研究事業」報告書

平成 22 年 3 月

社団法人 日本介護福祉士会

はじめに

「介護サービスは、基本的には人が人に対して提供するサービスである。従って、介護サービスを支える人材が介護サービスの質を左右する鍵であると言って過言ではない。介護保険施行後、サービスの提供量が増加し、また、ユニットケアの普及などにより介護サービスを担う人材に求められる質の水準も高度化していく傾向にあり、これまで以上に、介護サービスを支える人材の資質の確保・向上は重要な課題である。」

高齢者介護研究会の報告書『2015年の高齢者介護 - 高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて』（平成15年6月）において指摘されたこの内容に基づき、平成16年度に全国社会福祉協議会に「介護サービス従事者の研修体系のあり方に関する研究会」が設置され、尊厳を支えるケアの実現に向けたキャリア開発支援システムが提案されました。

「介護サービス従事者の研修体系のあり方に関する研究会」発足に際しての大きな特徴は、厚生労働省内で介護保険制度を所管する老健局、介護福祉士制度を所管する社会・援護局が共同でこの事業に取り組んだことだといえます。これは、キャリアパスを示すことによって、介護職員がキャリアの継続・向上に対する意欲を持つことを企図したものであり、介護人材確保の観点において非常に意義のある画期的なことです。

当研究会は平成17年度まで2年度にわたり開催され、そのなかでは現任者を対象とする研修体系についての構想もなされました。その研修体系のひとつとして、資格取得後2～3年の実務経験を有する介護福祉士を対象とし、小規模チームのリーダーや初任者等の指導係として任用されうる人材を養成する研修として提案されたものが、「介護福祉士ファーストステップ研修」（以下「ファーストステップ研修」という）です。

ファーストステップ研修の理念は、そのガイドライン（資料編参照）に次のように謳われています。

1) 基礎的な業務に習熟した介護職員を対象として、的確な判断、対人理解に基づく、尊厳を支えるケアが実践でき、小規模チームのリーダーや初任者等の指導係として任用することを期待できるレベルの視点や技術を有する職員を養成する。

2) 小規模チームのリーダーや初任者等の指導係等への役割任用の有無にかかわらず、できるだけ多くの介護職員が受講し、資格取得ルートの違い、業種や各職場でのケア理念・実務環境の違いによる経験・能力の違いを補完し、ケアの理念、職業倫理、たゆみなく自己研鑽に向かう行動などの共通の能力基盤を確立するとともに、キャリアについての展望をもつことで早期の離職を防ぐ。

実務のなかで実施してきたこと（実施できなかったこと）や自分自身のケアを振り返り、それを客観視し、言語化する機会を提供する。

キャリアの最初の節目で介護の仕事の深み、楽しさを改めて見つめなおすとともに、自らのキャリア形成について考える機会を提供する。

これから小規模チームのリーダー等に任用されうる職員として、常に改善にむかって努力・工夫しようという姿勢や意欲をもち、これを裏付ける視点、知識、技術を習得する。

この理念を踏まえると、ファーストステップ研修は次のようなねらいをもつといえます。

- ・実務経験を踏まえた実践的な知の統合化
- ・生活支援の理念を基盤とした介護観の確立
- ・自立・自律した専門職として持続的に成長できるように学習する意欲・態度等の形成
- ・個別ケア・職員育成を担う小規模チームのリーダー育成
- ・介護人材の離職防止・就業の持続

平成 18 年度からは、引き続き全国社会福祉協議会において「介護職員のキャリア開発支援システム普及促進モデル事業」が実施されることとなり、日本介護福祉士会静岡県支部を皮切りに、介護福祉士養成施設、介護福祉士会、事業者団体、自治体研修機関等の参画を得て、「ファーストステップ研修」試行事業が実施されました。

介護福祉士の現任研修体系が十分に整備されているとはいえない状況のなか、体系の初期段階であるファーストステップ研修が全国社会福祉協議会中央福祉人材センターにおいて 3 年間検討されてきたことは、介護福祉士の質の向上や介護人材確保の観点から、非常に重要な取り組みであったといえます(資料編参照)。

今後も研修の普及や研修内容の充実を図り、介護サービスの質をさらに向上させ国民の利益に供することが求められますが、そのためには、介護福祉士一人ひとりが「尊厳を支えるケア」を実践するために研鑽を積み重ねることが必要です。

また、専門職としての誇りと責任を有する者がチームのリーダーとなって、個々の利用者の状況に合わせてチームケアの方向性を調整したり、施設やサービスの環境を改善し、チームメンバーの労働意欲と労働規律を内部から自律的に高めたりすることがきわめて重要となります。

「生活全体を支える」介護という仕事は本来奥深いものです。それに気づかない、あるいは気づいても向き合い続けることができないという、介護人材不足の一因と想定される問題を解決し、本来の介護という仕事の深みや楽しさといったものに向き合うためには、支えあい、学び続けるチームづくり、リーダー養成が不可欠となります。

そのため、本年度行う「介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究事業」では、今後、養成のみならず継続教育の役割についても担っていくことが要請される介護福祉士養成施設、介護福祉士の継続教育や地位の向上に関する責務を負う職能団体である介護福祉士会、介護人材の開発と育成を担

う中央福祉人材センターという関係三団体が互いに協力し合いながら進めていくこととしました。

ファーストステップ研修を介護福祉士の継続教育の一つの柱として位置づけ、三団体がスクラムを組んで取り組んだことにより、次のような成果が考えられます。

- ・介護福祉士養成施設においては、ファーストステップ研修を実施することにより、介護福祉士の継続教育に対して、これまでよりもさらに奥深く取り組んでいくきっかけになります。

また、講師を担う教員が、現任の介護福祉士に教授することで介護現場において直面する課題を把握することが可能となり、それによって介護福祉士の養成に際して、教授の幅が広がることが予測されます。

- ・職能団体である介護福祉士会においては、全国の介護福祉士が受講しやすい環境整備への取り組み、講師養成や定期的な意見交換会等の開催による研修の質の確保等の役割が求められています。関係団体の協力を得ることにより、これらの役割をより円滑に果たすことができます。

また、養成施設とともに取り組むことで、介護福祉士の養成から生涯を通じた教育まで一貫してかかわることが可能となります。これによって、介護現場で働く介護福祉士のキャリアパスがイメージしやすくなり、早期離職の減少、介護人材確保につながると考えられます。

- ・ファーストステップ研修をきっかけとして、介護福祉士の研修体系が整備され介護福祉士の質が向上することは、介護サービスの質を向上させることにつながります。それは、介護サービスを利用する利用者やその家族、ひいては国民の幸福につながるものです。

今年度は介護福祉士養成施設、介護福祉士会、中央福祉人材センターという関係三団体の協力体制のもと、ファーストステップ研修の指導の要領及び教材の開発、受講生に対する調査に取り組みました。

わが国では、世界にも類をみない速度で高齢化が進行しています。超高齢社会における介護について、利用者、従事者をはじめとするすべての国民が明るい未来を展望することができるよう、本研究事業がその一助となれば幸いです。

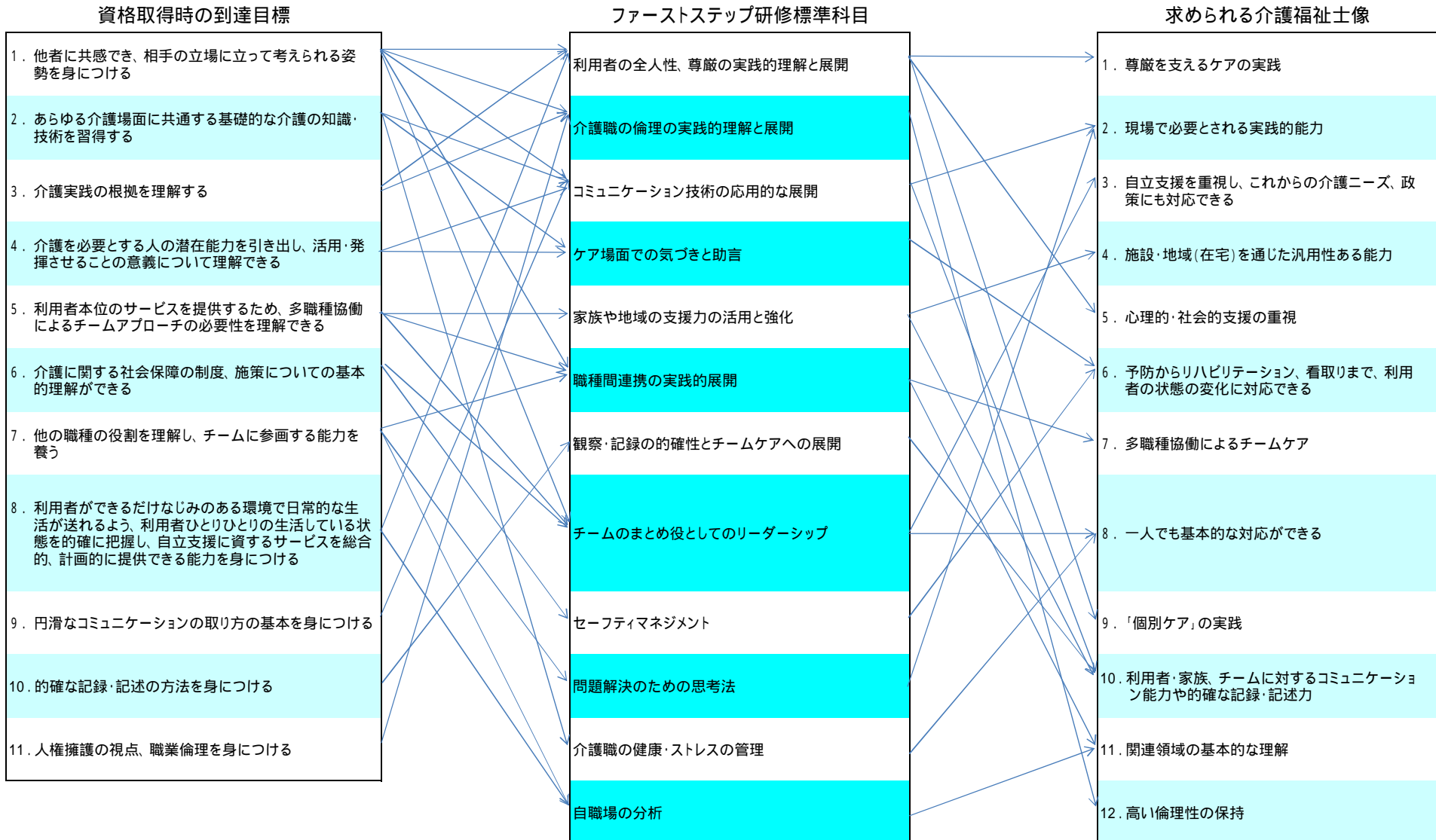
最後に、本事業にご協力を賜りました委員各位、社団法人日本介護福祉士養成施設協会、社会福祉法人全国社会福祉協議会中央福祉人材センターならびに調査にご回答いただいた受講者の方々、ファーストステップ研修実施機関、その他関係団体の皆様に深謝申し上げます。

平成 22 年 3 月

社団法人 日本介護福祉士会

ファーストステップ研修標準科目と「資格取得時の到達目標」及び「求められる介護福祉士像」との対照表

厚生労働省の示す「介護福祉士資格取得時の到達目標」に到達した介護福祉士が、現任者として「求められる介護福祉士像」に近づいて行くための初期段階の継続教育としては、以下に示す対応から見ても、ファーストステップ研修が有用であると考えられる(科目によっては、以下に示す対応以外にも、多くの要素を含むものもあるが、対照表としての明瞭さを重視し、特に対応関係が強固であると考えられる箇所のみ対応させている)。



はじめに

第1章 介護福祉士ファーストステップ研修における指導の要領について

1 指導の要領の使用にあたって

- 1 ファーストステップ研修のめざすもの(研修の理念) / 3
- 2 授業展開にあたっての基本的留意点 / 4

2 指導の要領

「ケア」領域

- 1 利用者の全人性、尊厳の実践的理解と展開 / 8
- 2 介護職の倫理の実践的理解と展開 / 11
- 3 コミュニケーション技術の応用的な展開 / 14
- 4 ケア場面での気づきと助言 / 19

「連携」領域

- 5 家族や地域の支援力の活用と強化 / 23
- 6 職種間連携の実践的展開 / 27
- 7 観察・記録の的確性とチームケアへの展開 / 30
- 8 チームのまとめ役としてのリーダーシップ / 33

「運営管理基礎」領域

- 9 セーフティマネジメント / 36
- 10 問題解決のための思考法 / 39
- 11 介護職の健康・ストレスの管理 / 44
- 12 自職場の分析 / 48

3 指導法のポイント

- 1 講義のポイント / 53
- 2 演習のポイント / 55
- 3 課題レポート作成のポイント / 56

第2章 介護福祉士ファーストステップ研修における教材の活用について

本教材の活用にあたり

- 1 基本的な考え方 / 59
- 2 ここで作成された教材とその活用の視点 / 60
- 3 「認知症高齢者」への支援に関する事例を多く取り上げた理由 / 65

教材の基本的な考え方

介護福祉士の専門性と「尊厳を支えるケアの実現」

- ファーストステップ研修修了者がめざすべき介護サービス -

/ 67

- 1 自立・自律した暮らしを実現していくケア / 68
- 2 「生活支援」が困難であるとされた利用者への「介護サービスの質」の向上 / 69
- 3 「人と人との関係性」～豊かな感情のやりとり～ / 71
- 4 「リーダーシップ」や「チームケア」の意味するところ / 74
- 5 「事例」を軸とした意味 ～ファーストステップ研修にあたり～ / 76

教材① 生活全体を支援する介護

- 尊厳を支えるケアの実現と介護職員のキャリア開発 -

/ 79

- 1 「生活支援」の意味するところ / 80
- 2 「生活障害」の視点と介護サービス / 88
- 3 「生活ニーズ」の視点 ～「その人」と「その人の生活課題」は切り離せない～ / 99

教材② 「介護サービス」の意味を「心の視点」と「生活の視点」から理解していく事例展開

/ 107

介護サービスを受ける利用者本人の視点から考える

- 笑うことを失ってしまったKさん

- 1 事例内容 / 112
- 2 討議ポイント / 120
- 3 解説 / 122

徐々に「生活の混乱が進む」認知症高齢者への支援を考える

- 1 事例内容 / 126
- 2 討議ポイント / 129
- 3 解説 / 131

教材③ 利用者・家族の思いを感じとる力を養う事例展開

- 映像資料「ハルさんの物語～ある高齢者と家族～」の利用について -

/ 133

1 本DVDの視聴を通じての理解 / 134

2 DVDのあらすじと見どころ / 135

3 研修教材としての活用 / 138

教材④ 情報の整理・分析の視点から

「生活支援としての介護サービス」を理解する事例展開

/ 141

認知症介護における「利用者主体」の意味を考える

- その人らしく生きていただくために

/ 142

Mさんの事例ハイライト / 144

1 事例内容 / 146

2 討議ポイント / 186

3 解説 / 187

認知症高齢者を「生活者」として見ていく大切さを考える

- 理由のない「行動」はない、「行動」の理由を探すのが専門職としての知識と経験

/ 190

Tさんの事例ハイライト / 192

1 事例内容 / 194

2 討議ポイント / 220

3 解説 / 222

第3章 ファーストステップ研修受講者へのアンケート調査について

- 1 対象者の属性 / 229
- 2 ファーストステップ研修についての考え方 / 232
- 3 ファーストステップ研修受講の評価の在り方、セカンドステップ研修に関する希望等 / 238

資料編

- 協議経過と主な意見 / 245
- ファーストステップ研修の考え方 / 274
- 小規模チームのリーダー養成等を目的とした「介護福祉士ファーストステップ研修」 / 285
- 介護福祉士ファーストステップ研修ガイドライン ～研修の企画、展開の指針 / 325
- 「介護職員のキャリアアップ研修体系の開発と支援に関する調査研究事業」委員名簿 / 349